報告

関東支部会の開催報告

亀谷和久（国立天文台）

1. はじめに

2017 年 11 月 12 日（日）に国立天文台（東京都三鷹市）において本年度第 1 回の天文教育普及研究会関東支部会が開催された。今回のメインテーマは､「天文現象との関わり方を共有しよう ～2018 年夏の火星大接近に向けて」とした。本会会員は様々なかたちで天文現象（日食、月食、流星群、火星接近など）に関わる活動をされている方が多い。その関わり方や実践例を広く共有することで、今後の会員の活動のヒントや新しいコラボの種となればと考え、このテーマを設定した。火星大接近を来年に控えているため、上記のような副題を付けたが、火星に限らず多様な天文現象への関わりについての発表が集まった。関東以外からも含め、全体で 43 名（会員 24 名、未会員 14 名、当日入会された方 5 名）の参加者があり、盛会となった。本稿では、このプログラムおよび発表の概要を報告する。

2. プログラム

発表はテーマ講演 2 件、一般講演 11 件があり、この他に 3 件の展示が行なわれた。プログラムは以下の通りである（敬称略)。

【テーマ講演】

・日食観測・観察に関する情報のかかわり方
飯塚礼子（日食情報センター）

・国立天文台が続ける天文現象観察・報告キャンペーン
石崎昌春（国立天文台）

【一般講演】

・夏休みジュニア天文教室～今年度報告と来年の火星大接近に向けて～
波田野聡美（国立天文台）

・アストロバイオロジー関連イベント報告：「火星人はいる？」と聞かれたら・・・
日下部展彦(アストロバイオロジーセンター)

・はじめて使う望遠鏡のあるべき姿とは？
大沼崇（株式会社スコープテック）

・北海道大学付属天文台 PIRKA 望遠鏡
高木聖子（北海道大学）

・流星電波観測を応用した体験イベントについて
武田誠也（株式会社バスキュール）

・親子天文教室での作品作り
飯塚礼子（日食情報センター）

図 1　盛況となった会場の様子

・明星大学天文愛好会「すばる」2017 年度天文啓蒙活動の報告
石塚千彬（明星大学天文愛好会「すばる」）
・新生シンラドームと科学ライブショー「ユニバース」
亀谷和久（国立天文台）
・遊休望遠鏡・星空案内人材と観望会開催希望者のマッチングシステム「そらの架け橋」
羽村太雅（柏の葉サイエンスエデュケーションラボ（KSEL））
・宇宙図 2018 の制作に向けて
高梨直紘（東京大学/天プラ）・宇宙図制作委員会
・経過報告：法人化に向けて
縣秀彦（国立天文台）・法人化実行委員会

【展示】

・Nikon WX 双眼鏡 製品紹介『100 年光学の、夢を見る』
ニコンビジョン
・ラプトル望遠鏡ほか
スコープテック
・リニューアルした火星儀
渡辺教具製作所

3　発表内容の概要

3.1　テーマ講演

テーマ講演の概要は以下の通りである。飯塚氏の発表では、日食情報センターのこれまでの活動から2012年の金環日食を例として、日食の際の情報提供で注意するべき点や来年の火星大接近に向けた提案などを発表された。石崎氏の発表では、国立天文台が 2004 年から様々な天文現象に合わせて実施している観測報告キャンペーンについて、その内容と成果を詳しく発表された。これまでに実施された 40 回のキャンペーンでは、流星群、彗星、月食、惑星などの多くの人が観測しやすい天文現象を対象とした。そのうち、流星群が最も報告数が多く、その報告結果から流星群の活動の変化を捉えることにも成功し、市民天文学の成果として論文化されたとのこと。現状の課題も述べられていたが、それらへの対応も含め今後の発展を期待したい。

図 2　講演を行なう石崎昌春氏

3.2　一般講演

一般発表として、以下の発表が行なわれた。波田野氏の発表では、国立天文台で毎年実施している小中学生対象の夏休みジュニア天文教室の概要を紹介された。日下部氏からは、昨今多数発見されている系外惑星に関連するイベントの報告が行なわれた。大沼氏の発表では、入門用の望遠鏡で本格的な見え味を持つことで定評のある製品の開発について紹介された。高木氏の発表では、北海道大学大学院理学研究院附属天文台ピリカ望遠鏡の紹介と北大オープンファシリティを通じた利用を紹介された。武田氏からは、流星電波観測を応用したリアルタイム流星観測システムと、これを利用したイベントについて発表があった。飯塚氏の発表では、親子天文教室で行なわれたセミナーと工作教室の企画運営について紹介された。石塚氏からは、明星大学の天文愛好会が実施したイベント等の活動の報告が行なわれた。亀谷の発表では、科学技術館の科学ライブショー「ユニバース」の会場であるシンラドームの機器更新とそこでのライブショーについて紹介した。羽村氏からは、

柏の葉での様々な科学教育活動から生まれた遊休望遠鏡・星空案内人材と観望会開催希望者のマッチングシステムについて発表があった。高梨氏からは、「宇宙図」の 5 年ぶりの改訂について、その内容とスケジュールが紹介された。縣氏による報告では、本会の法人化について、8 月の総会で行なわれた議論と決定、およびその後の法人化に関する活動について報告が行なわれた。

図 3　展示を前に談笑する参加者たち

4. おわりに

今回の関東支部会の発表は、テーマ講演だけでなく一般講演でも今回のテーマを意識した内容が多く、参加者の皆さんの今後の活動にも参考になる情報が多かったのではないだろうか。また、三者から出展のあった展示にも多くの参加者が興味を示し、実際の製品に触れながら出展者や参加者との会話に花が咲いていた。終了後の懇親会でも、毎回出席される常連から初参加の方まで大いに盛り上がり交流できていたようだ。支部委員一同、今回の支部会が参加者の今後の活動の糧になれば幸いである。最後に、発表者・参加者の皆様にこの場を借りて御礼を申し上げたい。

亀谷 和久

＊　＊　＊　＊　＊